

32

『医方類聚』引用の『活人心』について

劉 青

京都大学人間・環境学研究所 博士課程

1. はじめに

『医方類聚』は李氏朝鮮時代、1443年世宗が文官、医官たちに命じて編纂した国家的な医方百科全書である。266巻264冊で構成された膨大な著作であり、内容は92門に分かれ、合計約5万条の薬方、950万字が記されている。その中では、先秦時代から明代まで約153種の中国の医学書の内容が引用され、大きな影響を及ぼした多くの典籍が記されている。

本稿は明代医学書が朝鮮に与えた影響を探究するため、『医方類聚』所収の明初時代の養生書『活人心』から考察を行う。

2. 『活人心』について

『活人心』は明初の文人朱権(1378-1448)による養生についての著作である。朱権は、明の太祖朱元璋の第十七子で明代を代表する文人でもある。朱権は、自ら臞仙(くせん)と号し、涵虚子、丹丘先生の別号もある。晩年は政治の道を諦め、特に道教と医学に専念し、道教、医学、音楽について百種類の著作を残した。

『活人心』は、上下二巻からなる比較的短い書物ではあるが、朱権の養生分野における代表作ともいえる。上巻は「未病を治す」が主旨で、「中和湯」「和氣丸」「養生之法」「治心」「導引法」「去病延寿六字法」「保養精神」「補養飲食」の八つの部分で構成されている。下巻は「已病を治す」を中心にし、主要な内容として、「玉笈二十六方」と「加減靈秘十八方」があり、それぞれに二六種類の薬方や一八種類の薬方が記されている。

現在、筆者は五種類の版本を発見した。明刊本一種類、朝鮮刊本二種類、日本刊本二種類である。その明刊本のなかの一部は現在、台湾中央研究院傅斯年図書館に所蔵されている。台湾の明刊本は欠本で、下巻には一四種類の薬方部分が散佚している状態である。保存の関係で破損した箇所が多く、判読できない文字が数多く見られた。

3. 『医方類聚』引用の『活人心』について

『医方類聚』によって、「臞仙活人心方」という書名で『活人心』は合計二九箇所引用されている。二九箇所のうち、九箇所は『活人心』上巻から引用され、一八箇所は下巻から引用されており、『医方類聚』の諸風門、傷寒門、眼門、齒門、咽喉門、血病門、心腹痛門、水腫門、赤白濁門、諸痢門、解毒門、癰疽門、膏藥門、雜病門、養生門に、『活人心』の引用が見られる。

『活人心』上巻は約三分の二の内容が引用され、下巻は約二分の一の内容が引用されていることが判明した。特に上巻の「養生之法」の大部分、下巻「玉笈二十六方」のなかの一八種類の薬方が収録されていることから、朱権が考量した養生術や薬方が重視されていたことが明らかになった。「養生之法」の内容は、「解毒門」と「養生門」に引用されている。特に、「養生門 三」の「養生之法」に対する引用は、原文の内容が短いにもかかわらず、『医方類聚』にすべて引用されたのではなく、段落、文まで厳選され、必要だと判断された部分のみ引用されたことが判明した。

『活人心』明刊本を底本として『医方類聚』との内容校勘を行った結果は、一六箇所の文字異同があった。しかし、概ねは脱字、衍字、誤字と見られ、つまり人為的な改ざんではなく、刊刻のときの刊刻ミスだと判明した。また、このような例もあった。

『活人心』下巻 〈玉笈二十六方〉薬方：玉関金鑰匙

底本：淮烏三錢。

『医方類聚』：「淮烏三錢，寿域神方二錢」に作る。「寿域神方二錢」六字が多い。

「寿域神方二錢」という衍字は、この薬方を引用したとき、『活人心』と朱権の別の養生著作『寿域神方』の内容を対校して、異なる箇所を注釈した痕跡であった。